

北海道医歌人会詠草



ナナカマド

旭川 稲積 文子

赤き実を残して裸木のナナカマド降り初めし雪に耐えてしのびつ
お元氣かい？元氣に見えても元氣でない受話器を持ちて友との会話
文ちゃんと呼びくれし頃の友は世を去りて忘れずに居てくれた純子さんの便り
節あらく斜に曲りしこの脂は吾が一生の支えとなりて
出版を喜びはげましてくれる友多く今にして思う形なき財産

シリア内戦に想う

江別 三宅 浩次

遠い地のシリアとはいえ国民の血のつながりを血で洗うのか
我こそは絶対という価値観がいかほど人を殺したかを知れ
絶対の神を信じる宗教が正しいとはとても思えず
争いの地で仰ぎ見る曙は朝焼けの色それは血の色
わが国の政争に暮れる情けなきも報復に暮れる国よりましか

会津大内宿

札幌 山口 康徳

今年こそわれらが年と已^ひたちは執念^{しつこ}き外敵^{てき}を巧みに躲す
山白く平地は紅黄^{かき}緑色人よろこばせむと天の配剤
老人と幼児をおそふノロウイルス小粒なれども菌に眼あるや
いにしへの美^よき風景を残しるて人々つどふ会津大内宿
気温高く初雪おそきわが国は開闢以来とも囁かるエルニーニョ現象

傾聴療法

札幌 古屋 統

職域の人間関係相談を引受けますのコマーシャルあり
新入りがうつに陥り退職す対人関係何があったのか
ある職場対人不信くすぶれる犯人探しならむおそれも
あいつとは一緒に仕事したくないそれが二人いる職場だと言う
良きは誰悪しきは誰ぞ藪の中ただ聴く他に策持たぬわれ

岩東九十周年

美唄 吉村 誠治

高校の九十周年の祝賀会名簿の最初に我の名がある
旧制の中学出でし友減りて陸士・海兵は遠くなりたり
立上りブラスバンドに導かれ旧き校歌に自から和す
届きたる同窓名簿めぐり行く遊きし友かくも多きか
岩東に学びし息子弟のページめぐりてその名確かむ

ヌルデ

札幌 浜島 泉

あでやかさ劣ると言へどヌルデの葉類なき野趣帯びて色づく
枯れ落ち葉霜を戴くその上を散歩の犬が踏み行きけらむ
酸素マスクまさぐりし手を孫に向け握手ともなく触りて揺るがす
摂食が不能会話も不確かに握手のときは確^{しか}と応へつ
腕時計就寝のとき確かめつ当直^{とらひ}のときに習ひとなりし

歳月

釧路 児玉 昌彦

朝日浴び何事か話に熱中の小学生二人・学校への道
葉の落ちし林の小径行く夫婦・手押し車と杖の供つけ
仕事にも運不運ありと嘆きしが動植物の生き様想えば
自らの道みつけるのはいつの世も難しと息子に渡すピッケル
山道を歩み来たりて振り向けば視界は晴れて麓はるかに